

薬局薬剤師による外来服薬支援の現状と地域医療への貢献にむけた課題

大津 崇¹⁾、鮎川 安祐²⁾、常世田 京子²⁾、前田 守³⁾、長谷川 佳孝³⁾、
月岡 良太³⁾、森澤 あずさ³⁾、大石 美也³⁾

- 1) 株式会社インファーマシーズ かしわや薬局 栗山店
- 2) 株式会社インファーマシーズ
- 3) 株式会社インホールディングス

【目的】服薬管理困難な外来患者に対する支援の必要性を薬局薬剤師が判断し処方医承諾のもとで支援する外来服薬支援は、薬局薬剤師が地域包括ケアシステムの一翼として地域住民の安全かつ効果的な薬物治療に貢献する上で重要である。本研究では、外来服薬支援の現状を把握し地域医療への貢献にむけた今後の課題を抽出した。

【方法】当社が北関東地域4県で運営する27店舗に所属する薬剤師46人から2017年12月～2018年11月の外来服薬支援事例を聴取した。主な内容は「支援の経緯(複数回答可)」「患者の特徴(複数回答可)」「支援内容」「支援前後の服薬状況」とした。結果は有意水準0.05としたカイ二乗検定とFisher正確確率検定で統計解析した。なお、本研究はアイングループ医療研究倫理審査委員会の承認を得て実施した(承認番号:AHD-0015)。

【結果】聴取した126事例のうち患者と薬剤師のコンプライアンス(以下Comp.とする)の認識に相違があったものは13件しかなく、113件は両者の認識が一致した。両者ともにComp.良好とした事例を良好群(52件、46.0%)、不良とした事例を不良群(61件、54.0%)とした。「支援の経緯」は両群ともに「患者訴え(82.7%、86.9%)」が最も多く、次いで「薬剤師の提案(25.0%、29.5%)」となった。支援に至った「患者の特徴」は「認知機能低下(7.7%、36.1%)」「独居(5.8%、21.3%)」が不良群のほうが良好群よりも有意に高かった。「支援内容」は不良群では「一包化(62.3%)」と「お薬カレンダー等で管理(24.6%)」で大半を占めたが良好群では「その他」が36.5%存在した。支援後に薬剤師と患者の両者がComp.改善と判断した割合は両群とも約8割に至った。

【考察】Comp.不良患者で「認知機能の低下」「独居」の背景がある場合、支援される可能性が高くなる可能性が示された。また、Comp.不良患者は服薬管理を主目的に支援される傾向があるが、Comp.良好患者では服薬管理以外を目的とした支援もされていることが示唆された。患者背景やComp.によって支援内容は異なったがその

ほとんどが Comp.改善に寄与しており、薬局薬剤師の外来服薬支援は地域住民の安全かつ効果的な薬物治療に貢献することが示された。現在は患者訴えによる支援が多く、薬剤師から提案されるケースが少ないことから、今後は薬局薬剤師から積極的に支援に取り組み、地域医療に貢献することが重要と考える。

【キーワード】外来服薬支援、地域医療

(第 52 回日本薬剤師会(2019 年 10 月, 下関)にて発表)